

慈眼

第15号

発行所
 藤津郡塩田町大字
 五町田甲1307 学成院内
 TEL 09546-6-2285
 FAX 09546-6-2771
 日蓮宗佐賀
 教化センター
 発行責任者
 小寺大誠

立教開宗七五〇年 慶讃清澄寺団参無事円成

去る三月二十九日から三十一日まで
 の二泊三日の日程で、佐賀県宗務所主
 催の立教開宗七五〇年慶讃清澄寺団参
 が実施され、小寺大誠宗務所長が団長
 となり、県内より一四〇名の団員の参
 加を得、今回の団参の目的である。日
 蓮大聖人立教開宗の聖地、清澄寺に於
 ける慶讃法要を団員と共に感激深い素
 晴らしい法要を勤め、所期の目的を達
 成する事が出来、意義ある団参となり
 ました。

二十九日の一日目は、早朝より佐賀
 空港を立ち東京へ向い、大聖人入滅の
 霊場、池上本門寺に参拝。大堂改修工
 事の為に祖師像が本院二階に遷座され
 ており、普段では目のあたりに出来な
 い大聖人を間近に拝顔する事が出来、
 感激も一入でした。御開帳が終わり昼
 食を頂き目的的清澄寺へ向いました。
 清澄寺に到着してすぐ目に入ったのが、
 此の度の慶讃事業で宗門が建立した
 研修会館でした。この研修会館は地
 下一階地上三階建ての立派な建物で研
 修道場を初め二つの研修室、大小二十
 の和室の部屋があり二百名が宿泊出来
 るという目を見張るものでした。この

日は、この会館に宿泊、明日の御来光
 並に慶讃法要に備え早めの就寝となり
 ました。

三十日の二日目、午前四時半に起床。
 天候は曇空で、ご来光が拝めるか一末
 の不安をかかえる中、旭ヶ森に登り、
 日蓮大聖人のお銅像の前で団員一同声
 高らかにお題目をお唱え致しました。
 大聖人が我々の思いを聞き入れて下さ
 ったのか雲のすき間から、見事なご来
 光を仰ぐ事が出来、只々感謝の気持ち
 で一杯でした。



朝食後お題目写経を研修道場に於い
 て全員行いました。

写経後、清澄寺祖師堂に於いて今回
 の最大の目的である立教開宗七五〇年
 慶讃法要となり、徐々に緊張感が高ま
 って参りました。小寺所長導師のもと
 副導師に宗務担当事務長、本村孝弘上

人、協議員議長、鶴孝澄上人お二人が
 勤め、他八名の式衆の出座により盛大
 に執り行なわれました。団員一同、お
 堂に響き渡るお経の声を拝し、七百五
 十年の歴史を脳裏に浮かべながら大聖
 人の遺徳を偲んでいました。



立教開宗750年慶讃法要
 (於清澄寺祖師堂)

また、法要の中で寺庭婦人・檀信徒に
 よる法華和讃の奉納があり、清澄寺で
 聞く息のぴったり合った和讃奉納は一
 際素晴らしく、大聖人が笑んでおられ
 るお姿が目につかぶ程の感動でありま
 した。小寺所長は挨拶の中で「大聖人
 が、この立教開宗の聖地清澄でお唱え
 になられたお題目を私達がしっかりと
 受けとめ、子に孫に、又未信徒の方々
 までにも伝えていく使命があります」
 と立教開宗七五〇年を迎えるにあたり
 私達に「伝える」事の大事さを戒めて
 頂きました。ここに見事に此の度の団
 参の目的が達成円成し感無量の感激を
 団長初め、団員皆がしみめました。
 法要終了後清澄寺を後に、大聖人御

年四十三歳、小松原ご法難の霊場鏡忍
 寺へ向いました。この鏡忍寺は、ご法
 難の際に大聖人をお守りし殉教した弟
 子鏡忍房と工藤吉隆を弔う寺。ここで
 の縁起話は、まさにその当時はほうふ
 つさせる語り口調で感銘を受けながら
 聞き入りました。鏡忍寺を後に次に参
 詣しましたのが妙蓮寺。この寺では、
 大聖人の御尊父妙日尊儀(貫名次郎重
 忠公)、御尊母妙蓮尼(梅菊御前)を
 弔う寺で、御両親の墓塔を祀る御廟堂
 が建立されていきました。宗祖自ら御両
 親の法号を冠して妙日山妙蓮寺と命号
 されたという事です。次に妙蓮寺を後
 に誕生寺へ参詣し、御開帳を受けまし
 た。誕生寺は、大聖人の御誕生と母梅
 菊の蘇生延寿を記念して弟子の寂日房
 日家上人が建治二年(一二七六年)に
 建立されたもの。参詣後、二日目の宿
 ニュー小湊ホテル吉夢へ移動、宿泊。
 三十一日の三日目。この日は、朝か
 ら雪まじりの雨が降って大変寒い日と
 なりましたが、小湊を後に今回最後の
 参拝の寺院、東京葛飾は、寅さんで有
 名な柴又帝釈天、題経寺へ出発しまし
 た。到着後御開帳を受け、本尊は大聖
 人が自刻したと伝えられる帝釈天を描
 いた板で、御開帳を受け目のあたりに
 拝む事が出来ました。又特筆するべき
 事は、帝釈堂の随所に施された数々の
 彫刻の素晴らしさと、おしげもなく使
 用されているけやきの木材多さには感
 嘆させられました。以上二泊三日の日
 程全てが終了し羽田空港へと向い、佐
 賀へと帰路に着きました。

【特集】《日蓮大聖人のご生涯》

前号より引き続き日蓮大聖人の ご生涯をたどって参ります。

《前号まで》

千葉県小湊に誕生された日蓮大聖人は清澄寺にて出家され、諸国を遊学の後、建長五年四月二十八日、初めて「南無妙法蓮華經」とお唱えになられ、鎌倉で法華經の弘通を始められました。

《立正安国論》

当時鎌倉では、台風、大洪水、疫病、飢饉等、天変地異が重なり、人々は苦しみにあえていました。

大聖人は原因の究明のため、駿河岩本の実相寺の一切経蔵に入れられ、一切経をお読みになされました。その結果、正法（法華經）を謗り、邪法（禪、念仏等）を信じるならば、その国に三災七難が起る。未だ起きていない自界叛逆難（国内の戦乱）、他国侵逼難（外国の侵略）も必ず起るであろうと予言され、国土の平和をもたらす教えは法華經であるので、「汝早く信仰の寸心を改めて速やかに実乗の善に帰せよ」と主張された『立正安国論』を一、二六〇年（文応元年）に著され、当時の最高権力者、北条時頼に上奏されました。

《松葉谷法難》

『安国論』の上奏に対し、幕府首脳からは何の返答もありませんでしたが、念仏者の反感は激しく、八月二十七日、松葉谷の草庵に火を放ちました。

大聖人は危うい所を逃れられ、難を避けら

れるために、下総に所領を持つ富木常忍のもとへ行かれ、ここを中心に約一年の間、布教の日々を送られました。

一説には、この時大聖人の為に建てられたお堂が現在の中山法華經寺であるとも言われています。

富木常忍は深く大聖人に帰依し、後に出家して常修院日常と称し、大聖人の教えによく通じ、中山門流の祖と仰がれるに至った方です。

《伊豆法難》

一二六一年（弘長元年）春、大聖人は鎌倉へ戻られ、以前にも増して強く法華經への帰依を訴えられました。

これを快く思わぬ執権、北条長時は、大聖人の伊豆配流を決め、五月十二日、大聖人は不当に捕らえられ、由比が浜から伊豆へ流されました。

伊豆の伊東へ到着したものの、役人は、粗岩と呼ばれる小さな岩の上に大聖人を置き去りにしました。満潮で、あわや一命を潮の中に没されようという時、船守弥三郎という漁師に助けられました。弥三郎夫妻は大聖人を匿うのみならず、法華經に帰依し、大聖人に給仕をしたのでした。

伊東の地頭、伊東八郎左衛門も、大聖人に病氣平癒の祈願を請い、御祈祷にて見事に回復し、法華經に帰依した一人です。

大聖人は伊東におられる間、行住座臥つね

に法華經をお読みになられ、また、『教機時国鈔』などの大事な御書もしたためられるなど、伊豆での流罪生活を送っておられました。

一二六三年（弘長三年）二月二十二日、大聖人は御救免になり、鎌倉へ戻られました。

《小松原法難》

鎌倉へ戻られた大聖人は、その年か翌年頃、御母堂様の病氣看護の為安房へ御帰省なされた後、安房で布教をなされておられました。が、一二六四年（文永元年）十一月十一日、大聖人の一行約十名が、東条の松原の大路にさしかかった時、東条景信はじめ多くの念仏者に襲撃され、弟子鏡忍坊は殉死、二名は重傷し、大聖人も額に三寸ほどの傷を受けられ、死に直面する大難となりましたが、幸い危機を逃れられました。

大聖人は、法華經の「一切世間怨多くして信じ難し」（安樂行目昴）を身をもって読まれた事実を、法華經の行者としての自覚とされ、「されば日本国の持経者はいまだこの経文にあわせたまはず、唯日蓮一人こそ読みはべれ、我身命を愛せずただ無上道を惜しむとはこれなり、されば日蓮は日本第一の法華經の行者なり」と、『南條兵衛七郎殿御書』に語っておられます。



(小松原法難)

技術本位 信用本位

佐賀の老舗

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社

草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 **30-4040**
(0952)

南佐賀草苑本店 佐賀市本店町大字本庄951 **25-1255**
(0952)

汝早く信仰の寸心を改めて、 速やかに実乗の一善に帰せよ。

《立正安國論》

このお言葉は日蓮大聖人二十九歳の時、時の政治的な権力者である前執権の北条時頼（最明寺入道）に献呈された「立正安國論」の結論の部分です。

日蓮大聖人は一生涯にわたり立正安國論を講義、そして実践されました。お題目を信じ、唱へ、行う事により世界の浄化、つまり立正安國の誓願の人生でした。

天災が続き、内乱、元寇の恐れ等と人々の心は疲れはてている時、その宗教的な心の建て直しをしなくては真の解決方法はありません。

例えば現在も、世の中の反映と考えられる成人式、近年特に顕著に見られる多くの人を悲しませるような行為。宗教を忘れた悪知恵に毒された自由主義、民主主義等と、物で栄えて心から滅ぶ、希望が無く真の喜びが感じられないといわれてもしかたない現状です。

その宗教も逆にカルト、オウムが無差別テロ、靈感商法等逆に不安心を煽り、問題化しています。

又佛様を自分の奴隷のように、意のままにしようとするのではないのでしょうか。信仰（命令？）したら直接個人の欲望を満たす、つまり貧乏、家庭不和、病氣や

たたり等から救われる。有難い、ご利益がある、お供えしよう、取引しよう・・・

日蓮大聖人は本当の仕合せを求め行動され、世の中の乱れは、お釈迦さまの本心、法華経が正しく伝わっていないからだと考えられました。そこには生老病死に代表される四苦八苦の世で、いかに生きるべきかが説いてあり、死後はどうなるとか、靈魂のたたり等迷わす事は一切説いてありません。

そこから分かるのは、今まではせいぜい世俗的な名誉とか財産を得る、個人の欲望の成就等（信仰の寸心）だけが人生の最高、最終目的であったのに対し、より尊いこと（実乗の一善、法華経）があるのです。お釈迦さま、その教え（題目）を信じ、一体化し、行動することです。今世の浄化（立正安國）が過去世、来世にもつながり真の救い、喜びがあります。かつて法華経、日蓮大聖人の信者宮沢賢治は「世界全体が幸福にならないうちには個人の幸福はあり得ない。」と述べましたが、まさに立正安國の誓願から導かれています。

「お寺へのQ&A」

Q お仏壇がお位牌でいっぱいになってしまったのですが、どうしたらいいですか？

A 先ず位牌としてお祀りするのは、先祖代々の位牌と五十回忌に至らない霊位の位牌です。五十回忌を過ぎた霊位は、菩提寺様にお願ひして、過去帳に記載してもらい過去帳にてお祀り致します。又、五十回忌を過ぎた霊位の位牌は、菩提寺様より魂抜きをしてもらい、その後お火焚きをして頂きます。

仏壇内の位牌の整理に関しては、必ず菩提寺様のご指導を仰ぐように致しますようお願い。

Q 法要での正しいお焼香の仕方を教えてください。

A お寺や自宅、式場等で仕方が変わりますが、お焼香をする所が、お導師の前（前方）にある場合は、正面に向かって左手（場所によっては右手）から進み出て、合掌をして、お導師に一礼します。（式場など、立つてお焼香する場合は軽く一礼して、お寺や自宅の場合は、座って一礼しましょう）次に、焼香台の前まで進み、御宝前に一礼してお焼香します。作法については、指で抹香をつかみ、頭を下げ頂戴して火種の上に注ぎます。これを三回繰り返します。しかし、お焼香の人数が多い場合は心をこめて一回で済ませましょう。お焼香の後は、御宝前に合掌して礼拝して、右手に進み、お導師に一礼して自席に戻ります。回し香呂の場合は、回ってきた香呂を膝の前に置き、合掌・一礼してからお焼香を済ませ、次の方へ渡ししましょう。

創業明治22年

旅館

あけぼの

佐賀市中ノ小路3-10 ☎(0952)24-8181



手を合わせるころを大切に・・・

山木仏具

佐賀市呉服元町10-12 ☎(0952)23-4308

- ・寺院用具一式
- ・登高座
- ・仏壇檜物
- ・前座
- ・修天蓋
- ・宗教絵画
- ・其の他
- ・金物
- ・須弥
- ・美術彫刻品
- ・神祇用具
- ・仏像彫刻
- ・宮壇
- ・経仏壇
- ・瑠璃
- ・磁器

寺院紹介 (十三)

《功德山妙善寺》 くどくさん みょうぜんじ

杵島郡江北町八丁三一三



前田智憲住職

肥前山口駅より祐徳バス鹿島方面行きに乗り八丁バス停にて下車して東南へ約三百メートル、広々とした田園と南には六角川を望める所にあります。

【歴史】

妙善寺は、明治二十年（一八八八年）創立、開山は智琢院日輝上人で、開基は



〈開山上人の碑〉

壇越の淵上市次郎と言う方により現在地

に建立されました。

当山の南には六角川が流れており、創立年代までは橋が無く、寺参り等に変不便なこの地に、明治二十年本堂と兼用の庫裡を建設し、教会所とされました。

明治二十六年（一八九四年）には、日蓮大聖人に「上洛し、帝都弘教をせよ」との遺命を受け、見事に果たされた龍華樹院日像上人が、元亨元年（一三二一年）十一月に醍醐天皇より皇居の御溝の傍今小路に寺地を頂いて建設された大本山妙顕寺の末寺となり、奈良県より寺号の妙善寺を移転、山号を功德山と称し、明治三十三年（一九〇一年）に本堂を建立されました。

【本堂】

幾度となく風水害に遭い建物の老朽も激しく、立教開宗七五〇年記念事業に於いて本堂及び庫裡を同時に新築。

【山主】

妙善寺第六世前田智憲上人は、現在県内寺院中最年少（二十七歳）住職で、法務は勿論青年会、雅楽部など様々な分野で活躍されています。



〈妙善寺全景〉

日蓮宗新聞

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔：宗門唯一の伝道機関紙
毎月1日・10日・20日 年間購読料3600円（送料込）
教誌 **正法** しょうぼう ○年4回発行
お正月（1月号）／春季彼岸（3月号）
お盆（7月号）／お彼岸（お会式）（9月号）
一冊350円（送料別）年間購読料1700円（送料込）
※尚 お申し込みは菩提寺様迄お願い申し上げます。

日蓮宗佐賀県教化センターでは読者の皆様よりご質問等を募集致しております。葉書に、ご質問の内容・住所・氏名・菩提寺等をお書きの上、教化センターまでお送り下さい。お答え出来る限りお答え致します。



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で嬉しい品を

梅谷佛具店
TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)

フリーダイヤル 0120-39-0456

支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

TEL 092-806-7499

通産大臣認可 7産第2930号



株式会社 **冠婚葬祭こころの会**

三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633

こころの会指定店

総合葬祭

有限会社

黄城

小城町270 ☎73-3938・FAX72-3633